

第 49 回日本放射線技術学会秋季学術大会参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは。華岡青洲記念病院の山口です。コロナもやや収まってきている印象（10月29日現在）で、雪が降る前に少し羽を伸ばしたいと思い始めている今日この頃です。

日本放射線技術学会が開催する学術大会は、私たち診療放射線技師の学術発表の場として重要です。しかしながら、昨年の春に開催された JRC は web となり、同年の秋季大会は中止となってしまいました。今年の JRC はハイブリッド開催とはなりましたが、会場は閑散とし、一般演題もビデオ発表が殆どで、その場合は質疑なしというスタイルでした。ですが、今年の秋季大会は、当初よりハイブリッド開催で案内されておりましたので、ビデオ発表後には質疑の時間も設けられていたり、懇親会にも web で参加できるなど様々な工夫がありました。

私は、一般演題の座長として参加し、座長の相方は RSNA2015 で Magna Cum Loud を受賞した佐賀県医療センター好生館の三井さんでした。担当したセッションは「撮影 (CT) 心臓」で、dual energy CT やステントサブトラクション、deep learning reconstruction など、興味深い演題が多く、とても楽しい時間でした。臨床現場で働きながら日常の疑問を明らかにしていく研究は、我々の真骨頂であり、若い方々のこれからの期待するところです。そんな中で、印象に残ったのが、エポキシレジンを利用してヨード密度ファントムを作成したという演題です。よく 100 均で売っている混ぜたら接着して固まる“あれ”です。私も血管ファントムを作成する時に接合部などで良く使っていましたが、それにヨードを混ぜてかたに流し込んで固めるという事でした。しかしながら化学反応で熱膨張するなど、色々を作成には苦勞するようで、そのノウハウなどを発表していました。ファントム作成も楽しいですよ。是非、皆様もトライ

してほしいと思います。

“旅にはトラブルがつきもの”とは言いますが、大会前日には熊本空港の一時閉鎖や、大会終了日には阿蘇山の噴火もありました。ですが、そこを“するする”っとかわしながら、久しぶりの学会出張は成功裏に終わりました。これからも、感染対策をしながら積極的に学会や研究会への参加を再始動させたいと思っています。



開会式の様子：まだまだ参加者が少なく、寂しいですね・・・